

「日々の理科」(第 3856 号) 2025, -3, 26

## 「東京近郊日帰り旅行 (2)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

立川駅はこのあたりでは八王子駅と並ぶ「ターミナル駅」です。「中央線」(中央線快速電車・中央本線中長距離列車)の他、「南武線」「青梅線」の始発駅でもあり、「多摩都市モノレール」も乗り入れています。駅前からのバス系統の数も半端ではなく、特に北部地域行のバスがひっきりなしに発着しています。



平日の通勤時間帯には、立川駅からの乗車客や他線やバスからの乗り換え客で、相当な混雑になります。しかし日曜日の早朝だったので、乗客の姿はほとんど見られませんでした。ちなみに立川駅は、改札内のトイレがとてもきれいなので、お勧めします。



さまざまな系統の列車が行きかう立川駅なので、線路の本数も大変なもので、その中には「行き止まり」の線路も多数あります。線路の行き止まりには「車止め」と呼ばれる設備があります。写真のように単にバラスト(砂利)を盛っただけの簡素なものから、圧力ばね付の高性能のもの(たとえば、東武東上線池袋駅)

も存在します。写真のような標識が必ずあり、同僚のお子さんの影響で、私もこの「車止め標識」が好きになってしまいました。



立川を出発して、やっと夜が明けてきました。地図を見るとわかりますが、中央線は中野駅から立川駅まではほぼ東西一直線です。しかし立川を発つと、初めて左に大カーブして、多摩川を渡ります。



この日は半月(下弦)を過ぎた月が残っていました。揺れる電車の中からでも、何とか撮れました。



中央線の正式名は「中央本線」です。高尾までは「中央線快速」と呼ばれ、「通勤路線」というイメージが強いと思います。しかし高尾を過ぎると、あまり知ら

ない駅名がズラリと並んでいて、何となく「旅行に出たな」と感じます。実際は四ツ谷も中野も「中央本線の駅」なのですが、「上野原」とか「四方津」という文字を見ると「あ、中央本線に入ったな」と感じるのは。



事実高尾を発車すると、車窓景観ががらりと変わります。「関東平野」から「関東山地」に突入するからです。急に山の「気」を感じる一瞬です。白い橋は「圏央自動車道」です。

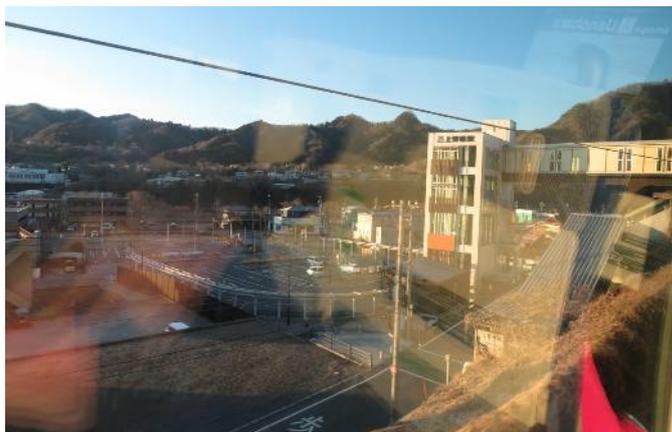
このあたりはまだ八王子市の郊外ですが、山にはさまれた狭い敷地に民家が一直線に並んでいます。中央線が私鉄だったら、まちがいなくこのあたりに駅を一つ設けて「小仏」とでも名付けていたでしょう。住民も高尾駅までバスに乗らずに済むので、きっと便利になるし、小仏峠～高尾山ハイキングや陣馬山登山の下車駅として賑わうにちがいありません。



東京都と神奈川県の間にある「小仏トンネル」を抜けると、最初の停車駅は「相模湖駅」です。かつては「与瀬駅」といっていましたが、昭和31年に観光地っぽい駅名に変更されました。相模湖の駅前には、小学校時代の同級生が住んでいました。ここから府中の小学校まで通学していたのです。驚きですね。



相模湖駅から上野原駅あたりまでの車窓景観は楽しいです。大月行なら左側に座ることをお勧めします。特に相模川がつくった「河岸段丘」が見ものでしょう。



上野原駅も河岸段丘の上にあります。駅前広場は一段低い段丘上にはありますが、線路はもう一段上の段丘上にあるのです。相模川の本流はもっと下で、何段もの河岸段丘の上に街が立地しているのです。



四方津駅には壮絶な思い出があります。小学校4年生ぐらいの時に、友達10人ぐらいとハイキングに来て、四方津に下山しました。駅の直前で猛烈な雹（ひょう）に遭い、駅近くの公園のトイレに逃げ込みました。この世の終わりかと思うような凄まじい降り方で、男の子も女の子も一かたまりになって、泣きながら震えていました。その時のことを思い出しました。